

柔軟な思考ができる、いろいろな角度から物事をとらえられる訓練をしている、いろいろな事象に興味を持つ——こうした人が国家試験に合格しやすいと言えるだろう。特に近年の国家試験では、この傾向が強まっている。

勉強とは「連想ゲーム」

国家試験は同じことを出題していても、そのたびに角度を変えて問題が作成されている。特に今年の薬理学の問題では、その傾向が強かったのではないだろうか。われわれから見れば、過去問題のモディファイが多く、得点しやすかった様に思えるのだが、受験生から聞こえてくる声は、意外や『難しかった』というものだった。

『私は過去問題5年分を3回解いたわ!』『僕は過去問題なら、何が出ても満点取れるぞ!』なんていう学生もいるが、その様な学生たちが、必ずしも合格するとは限らない。それはなぜなのか。

理由は簡単である。理解したつもりになっているだけで、本当の理解をしていないからである。今年、薬理学の範囲で出題された設問など、まさに過去問題の誤文の理由さえ把

表面上ではなく本質の理解が肝要

握できていれば、容易に回答できたはずである。出題の角度を変えられても、真に理解していれば解けるはずである。

過去問題を何回解こうとも、やり方によっては意味がないものになってしまう。反面、たとえば他人より回数が少なくても、そのやり方によっては効率良く、意義のある学習になるのだ。

また、人間とは単純なもので、5年分を出題回数ごとに解く場合、『あ〜、まだ3年分も残っている!』とか『あと560問も残っているのか!』など、ネガティブなことばかり考えがちになる。

国試名人のアドバイス

Q. 実際、国家試験にこの範囲から、何問くらい出題されているか?

A. 平均して3題。その3題の中に、毎年のように1問だけ出題されているのが細菌性食中毒である。

優先順位を付けるならば、まずこの細菌性食中毒から勉強すべきであろう。また、この中で何を知っておくことが大切なのか、それは過去問題から想定することができるのだ。

ほぼ毎年の様に1問だけ出題されるのだから、10年間の過去問題を集めてもたった10題である。その10題を比較することで、優先順位は決まってくる。

この様に、自分の勉強のペースに合わせて、同じ分野の過去問題をまとめて分析することは、その領域の重要なポイントを把握することになる。同じ内容であっても、出題回によって角度を変えた設問となっているため、応用問題にも対応可能な力が、自然と身についてくるのである。

また、「きょうできることは、きょう実行する。後回しにはしない」こと

今日できることを明日に延ばすな

柔軟な発想で難関突破を



過去問題を分析し優先順位づけ

そこで、効率よく楽な方法はどうしたらよいかを伝授しよう。非常に単純なことで、読んだ後は『なーんだ、そんなことか!』と思うはずである。まず、限られた時間を有効に使うため、効率よく、出題頻度の高いものから、押さえていくことが肝要だ。そこで、具体的に分かりやすい衛生薬学の範囲で解説していこう。

衛生薬学の出題数は40問。全体(240問)の6分の1を占めている。その中に食中毒という分野があるが、この分野には、細菌性・ウイルス性・自然毒・カビ・化学物質など様々なものが含まれる。

が、合否の分かれ道でもある。

1点でも多く得点し、安心するために、今できることにベストを尽くそう。その対策の一つに、時事問題対策がある。

時事問題は「薬理学」「衛生薬学」「薬事関係法規及び薬事関係制度」など、広範囲にわたって毎年出題されている。決して難易度が高い問題ではない。一般常識問題として出題されているのであるから、年内に起こった事項の新聞記事をファイルすることが非常に効果的だ。

いろいろな所にアンテナを張り巡らし、確実な情報を得る。その情報から連想できることを確実に学ぶ。勉強とは実は連想ゲーム。連想豊かな者が、最後に笑うことができるのだ(仕事も同じじゃないか〜)

薬学部3年生 就職活動スタートは

CanPass*Net

キャンパス*ネット



就職DATAハンドブック
(10月下旬発行)



薬学生スタートアップセミナー
11月19日(日)新着



就職情報サイト
www.canpass.net

詳しくはホームページをご覧ください。 キャンパス*ネットは(株)グッピーズにより運営されています。
 キャンパス*ネット 東京都新宿区西新宿1-13-12 西新宿昭和ビル5階 TEL:03-5908-3880 FAX:03-5908-3881 e-mail:info@canpass.net